

資料

広島県太田川東部工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

昭和30年から35年にかけて、全国的に臨海地域の工業化が進み、広島市東部から呉市に至る広島湾東部沿岸部も、鉄鋼、造船、自動車など重化学工業を中心として工業の集積が著しく進んだ。

特に、呉市は終戦により経済的基盤を失っていたが、鉄鋼、造船、機械、パルプ等を中心とする大企業が相次いで進出し、産業港湾都市として著しい成長を遂げた。

これらの地域の生産拡大に伴う水需要の増加に対応するため、太田川東部工業用水道事業は実施された。

○事業の経緯

太田川東部工業用水道事業は、広島市の中心部を流れる太田川を水源として、呉市、広島市、江田島市の上水道と共同で水道施設を建設したものである。

第1期分200千 m^3 /日（うち工業用水150千 m^3 /日）は、昭和37年度に着工し、昭和40年度に完成した。昭和41年度から安芸郡海田地区配水管布設工事に、昭和43年度から呉市広地区を対象とする第2期分100千 m^3 /日（うち工業用水80千 m^3 /日）の工事を実施し、昭和44年度に全工事を完了した。

現在、5者に給水しており、平成19年4月1日現在の契約水量は日量187,240 m^3 となっている。

○ユーザーの概要

（平成19年4月1日現在）

業種	給水件数	契約水量（ m^3 /日）
パルプ・紙	1	50,000
鉄鋼	1	116,500
輸送用機械器具	2	20,240
ガス	1	500
合計	5	187,240

○工業用水道施設の概要

太田川の表流水を水源とし、太田川左岸の戸坂取水場（広島市）で、300千 m^3 /日を取水している。戸坂取水場から導水ポンプで高さ約66mの導水隧道に揚水し、

延長2,842mの導水隧道を経て温品浄水場（広島市）へ送り、広島、海田及び呉方面へ送水している。戸坂取水場の電源としては、太田川発電所より11万V送電線を架設し、3,000KVAの変電所を設け動力源としている。

なお、供給先の大半が呉方面であることから、幹線距離は約50kmにおよび、そのうち約24km（最長区間約16km）が水路隧道となっている。

また、隧道勾配は1/2,000で、戸坂取水場からポンプで66mの高さに圧送した後は、全線自然流下で末端まで配水できるようにしている。

○事業の特徴

太田川東部工業用水道事業の施設のうち、工業用水の専用施設は配水施設の一部だけとなっており、他は全て呉市、広島市及び江田島市の上水道との共同施設として建設されている。

なお、施設は広島県を含む4者で建設したが、県が工事施工に当たったこともあり、維持管理は県が他の3者から委託を受けて行っている。

水源	太田川表流水
給水開始	昭和40年4月
計画給水量	230,000 m^3 /日
給水区域	広島市、呉市、安芸郡
現有施設能力	230,000 m^3 /日（温品浄水場）

（給水料金）

平成18年4月から従来の責任水量制（定量給水）に加え、新たに使用水量を加味した二部料金制（一般給水）や小口給水制（少量給水）を新設し、ユーザーの利用形態に応じて最適な料金制度を選択できるよう料金メニューの選択性を導入した。

区分	一般給水	定量給水	少量給水
基本料金	10.90円/ m^3	14.30円/ m^3	2,960円/日*
使用料金	4.80円/ m^3	-	6.80円/ m^3
特定料金	15.30円/ m^3	15.30円/ m^3	-
超過料金	31.40円/ m^3	28.60円/ m^3	-
改定年月日	平成18年4月1日		

※少量給水の基本料金欄の2,960円/日（基本使用料金）には50 m^3 /日の使用料金を含む

○給水系統図を含む給水系統図

